

11/ 2(土)	第41回日本栄養・食糧学会近畿支部大会(辻学園調理技術専門学校, 大阪)	日本栄養・食糧学会	6号, p. 111
11/27(水) ~29(金)	第43回高圧討論会(愛媛県県民文化会館, 愛媛)	日本高圧力学会	4号, p. 96
2004年 8/ 1(日) ~ 7(土)	国際家政学会(IFHE)第20回世界大会(京都国際会館, 京都)	国際家政学会	51巻7号, p. 99

新刊紹介

日本喪服史 古代篇 —葬送儀礼と装い—

増田美子 著

源流社, 定価 3,600 円+税, 2002 年 2 月発行

現代の葬儀形態が多様化してきた背景には, 死に対する意識の変化があげられる。今日, 喪服はほとんどが黒色の洋服であるが, 近年まで地方によっては喪主や親族が白色の着物を着たり, 浅葱色の袴を着ける姿があった。これは江戸時代以来の伝統的な喪の姿であった。

喪服の色の変化に象徴されるように, 時の流れの中で少しずつ日本人の死に対する意識も変化し, 死に関わる装いも変化してきた。これまで葬送儀礼に関する多くの本は民俗的な側面からのものであって, その歴史的に迫ったものは非常に少ない。特に, 死装束や喪服の歴史に関する本は皆無に等しい。極めて史料の少ない時代である古代編を, 広範な史料を駆使して詳細に検討し, 日本人の喪服のルーツを明らかにしている。

細目は省略するが全体の構成は次の通りである。

第一章 縄文～奈良時代

第一節 飛鳥時代以前の葬送儀礼と喪服

縄文時代／弥生時代／古墳時代／飛鳥時代

第二節 大化から奈良時代の葬送儀礼と喪服

大化時代／白鳳時代／奈良時代

第二章 平安時代

第一節 平安時代前期

葬送儀礼／死装束／喪服(錫紵・素服／葬列装束／服喪服)

第二節 平安時代中期

葬送儀礼／死装束／喪服(錫紵・素服／服喪服)

第三節 平安時代後期

葬送儀礼／死装束／喪服(錫紵・素服／心喪服・諒闇服)

第四節 庶民の葬儀と喪服

なお, 原文史料が各章, 節, 項ごとに添えられている。

今回の古代篇から引き続き, 現代までを通して, 日本人の死に関わる装いの歴史の全容を明らかにすることを期待したい。
(伊藤)

茶の機能 生体機能の新たな可能性

村松敬一郎・小國伊太郎・伊勢村護・

杉山公男・山本(前田)万里 編

学会出版センター, 7,600 円, 2002 年 3 月発行

茶は世界中で古くから飲用されており, 茶の成分分析に関する研究は大変盛んで長い歴史があります。しかし, 茶と健康との関係に関する研究が盛んになってきたのはこの十数年であり, その間に飛躍的に発展しています。中でも日本はその研究分野において世界をリードしています。

疫学調査によると, 静岡県は日本の中で発がん率が最も低く, また, 茶の摂取量が最も多いといわれています。そのため, 茶にはがん抑制効果が

あるのではないかと推測されました。最近の研究では, 茶の成分であるカテキンがその作用に寄与しているといわれています。

この本の編者は茶の研究で著名な先生方であり, また, 坂田完三, 宮澤陽夫, 寺尾純二, 佐野満昭, 富田勲, 原征彦, 大森正司, 五十嵐喜治, 横越英彦, 矢ヶ崎一三, 伏木亨(敬称略)をはじめ, 現在, 食品栄養学の分野で第一線で活躍されている先生方により執筆されています。その内容は, 茶の研究の歴史や製造法, 化学, カテキンの吸収と代謝, 抗酸化作用, 抗がん作用, 動脈硬化抑制作用, 血圧上昇抑制作用, 抗糖尿病作用, 肝機能保護作用, 抗アレルギー作用等について詳しく説明され, 最新の知見と文献が紹介されています。この本は食生活と健康について研究している方々には是非お勧めしたいと思います。
(川澄)